

あなたや所属する事業所等で、日々感じている又は感じたことで、自立支援協議会専門部会の中で、地域課題として取上げたいテーマをお書きください。	テーマに関する具体的なエピソード	その他意見	担当部会
BCP(災害対策)、困難事例	1) BCP及び災害対策 民間の研修にも参加したりしていますが、同サービス、同規模、同業種を真似るとよときいたので、そういった情報共有をできればありがたい。 2) 困難事例 ご本人が選択、希望されたあーびすが暫定期間内ではわからないことも多く、そういった際の相談先などあればありがたい。		地域づくり
就学後の支援について	放課後等デイサービスへの希望が難しい場合の就学後の継続した支援に課題を感じる		子ども
障害を持った方が生きやすい地域とは	家の中だけで生活している分には問題はあまりないが、家から一歩外に出たら、街の人から冷ややかな目線を気にしている障害者の声を、事業運営を通してよく聞きます。生きやすい地域とは、どんな地域なのか、ぜひ協議していただきたいです。		地域づくり
障害の特性や家族の高齢化等により、自宅で生活することが困難になった（知的）障害者がグループホームや入所施設ではなく、地域で独立した生活をしていくための地域支援の在り方	自傷行為の増加や引きこもりがちの日々から、不規則な生活となり自宅で家族との同居生活が困難になった方が、都外のグループホームに入居したことがきっかけです。集団生活に馴染みのない方が、どのような支援があれば地域で暮らせるのだろうかと思いました。		地域づくり
児童発達支援、放課後デイサービスの療育という特性上、自立支援に向けて地域と関わる場面が限られています。こちらもどのように地域と関わっていくか検討中です。			子ども
・新宿区内の相談支援事業所を増やせるとよい。そのための方策は？	セルフプランでの放day利用者が多く、他放dayとの連携を取ろうとする際、動くのが難しかったり、個人情報の扱いの問題で思うように進められない。地域連携を進めるためにも増えるとよい。		相談支援 子ども
②担い手不足	② 職員が10名いるがその半数は勤続3年未満。2～3年で退職する人、10年近く勤務しても継続せず退職してしまい、施設長（勤続27年）との差がどんどん開き、次の担い手が育たない。経営継承も困難になりつつある。住宅手当などを支給し、給与面で継続しやすい環境を整備していきたい。		その他
③精神障害当事者の力を各方面で発揮して欲しい	③ 精神障害当事者が様々な新宿区の施策策定の会議体等で委員を担い発言できるよう、力をつけられると良い。施設としては、毎日のミーティングで利用者が施設運営について意見を述べられるような場作りをしている。また、新宿区への要望活動に当事者として発言したり、病の体験を語る講演会に参加し普及啓発に努めるなどの機会を設けている。新宿区としてもピアサポーターを養成したり、ピア活動を支える仕組み作りに力を入れ、当事者が当事者のための施策作りに取り組めるようサポートできると良い。		その他
高齢者問題について	<高齢者問題について> 近年、聞こえない高齢者が増加しています。手話を用いる者にとって手話言語は必要不可欠です。聞こえない高齢者が放置されている現状です。孤独死を防ぐ為にも支援と見守りが必要です。 ご参考までに、本年4月より障害者差別解消法が改正され、事業者による合理的配慮が義務になりました。		地域づくり 相談支援

<p>手話言語条例について</p>	<p><手話言語条例について> 令和2年6月19日に制定されましたが、まだまだ課題が山積しています。</p>		<p>地域づくり</p>
<p>当会でも当事者もボランティアも高齢化してきていることが問題になってきています。 リハビリテーションのある病院も回ってはおりますが、コロナ以後には区民以外の会員が減っているのが現状です。</p>	<p>当会でも、区外の入会もありますが絶対数は減っています。入会数が減っている原因がなぜなのかを考えています。 ようやく「失語症者向け意思疎通支援者派遣事業」が始まっていますので、頑張っていきたいと思っています。</p>		<p>地域づくり</p>
<p>利用者を通したミクロの課題として ① 移動支援（土日や通学の）のヘルパーが見つからない ② 放課後児童デイを利用後、成人となり生活介護となったが、生活介護のサービス後から夜間にかけてのサービスがないことで時間をどう埋めるかが課題。</p>	<p>移動支援を利用し通学、学校側から一人での通学を認めてもらえず、学校側が両親の同行登校かヘルパーとの同行を要求される。一人通学OKの判断は学校がする。そもそも特別支援学校へ通学ではなく、学区の中高へ通学ができれば両親が同行登校できるケースもある厚労省と文科省の聞きあいのように感じます。</p>	<p>建設的な意見交換がしたい。近隣の課題情報を区から提供して欲しい。</p>	<p>子ども</p>
<p>家族の高齢化、親亡き後に向けて、本人の自己決定を支援しながら、家族から自立した生活をいかに構築してゆくかが高齢の親にとり大きな課題です。 そのような生活を構築するためには、①幼少児からの本人の障害の特性にあったコミュニケーションスキルの獲得、②ライフステージの節目で本人のごく当たり前の生活に必要な情報等の次の支援者への引継ぎ、③長期にわたって本人の発達、変化に寄りそう専門職、相談専門支援者、家族、インフォーマルの人たちとの情報交換、④本人を中心にした、本人の視点にそった、本人自身の変化と環境変化への対応が必要不可欠です。 新宿区、自立支援協議会部会では、上記の課題への対応をなさっておられますが、より草の根的な継続性のある研修プログラムを構築していただきたいと思えます。例えば、現在、新宿区障害者福祉活動事業助成金を受けて、新宿区手をつなぐ親の会がおこなっている権利擁護事業『知的障害のある人の権利擁護事業：知的障害のある人の自己決定を考える～支援者として家族として～』があります。 そのような研修プログラムでは、本人の日常生活での権利が守られている、本人の視点にたつた・本人の障害特性にあった支援、支援の継続性、本人の精神的・身体的な変化、環境の変化へ対応した支援について第一線の専門職、支援者、家族、本人がフラットな関係で学び、意見交換をすることで、本人たちの支援の本質である、お互いへの敬意を育み、合理的配慮の現場での実現を体得することができると思われます。そのような学びの機会こそが、地域に根付いた、本人の自己決定を尊重した、自立支援につながると思えます。</p>	<p>* 実際の息子たちへの支援を通して ・情報の共有と支援の継続 GHで食事についての方針がキチンと伝わってなく、本人には必要のないカロリー制限が行われ5kg近く体重が減り、本人が問題行動を起こすまでそれに気づかなかった。 ・サービスの不足のために、今ある制度に本人たちの生活を押しはめることにより本人の意思を尊重した生活ができない 本人に問題行動があり（早い段階での問題行動への対応があれば、他者への危害は避けられたのではと主治医などから言われている）、通所バスが利用できなくなった場合、家族が対応しています。区役者の担当者からは、「もし、ご家族での送迎が無理ならば、施設入所もあります。同じ敷地に通所施設がありますから問題ありません。」、ガイヘル等は人手不足で、登所・降所は多くの方が利用しているし、問題行動があるので人員の確保はかなり難しいのでそのような提言をなされたと思いますが、それを聞いた親は啞然とするばかりでした。たしかに、入所施設という選択しはあるかもしれませんが、ただ、今ある本人の生活、本人が楽しんでいる週末・週日の余暇活動、家族との生活についての思いやり・敬意がない助言には、将来を考えると暗澹とした気持ちになりました。お互いの今の状況を包括的にみて敬意をもちながら、最善の策をとるにはという、話し合いの基本が大切だと痛感しています。そのような話し合いは、地域での自立した生活は不可欠かと思えます。</p>		<p>地域づくり 相談支援 子ども</p>
<p>重症心身障害者のための学校教育卒業後の生涯学習のあり方について</p>	<p>現在NPO 法人を立ち上げ、重症心身障害児者の自立支援活動を行っている中で、重症者の卒後の選択肢を増やしてほしいと言うニーズを多く耳にしていることから、地域で広く協議していくべきと考えています。</p>		<p>子ども</p>
<p>緊急時の支援のためのクライシスプランの作成が実際にどの位進んでいるのか？クライシスプランを活用して緊急時の対応が上手くいった例があるのか？相談支援専門員と当事者に係る事業所関係者等の情報共有と連携がとれる体制の整備について</p>	<p>親の高齢化が進み、親の急病などで障害者を介護することができなくなった時に、一人で生活するのが困難な障害者をどのように支えていくのか、気になっています。区内での緊急時を支える仕組みがどのように機能しているのか、クライシスプランの作成は有効かと思っていますが、実際に活用した好事例や親ができる準備などあれば、知りたいと思っています。</p>		<p>相談支援</p>
<p>短期入所について。区立障害者福祉センターの予約が取りにくい。また、短期入所を利用しても、日中活動の場所への移動が難しいという話をよく聞きます（通常ルートと異なるため、移動支援等のサービスも対応してくれる事業所が少ない）。</p>	<p>ひとつのケースだけでなく、計画相談のモニタリングの聞き取り時に上記のような話を聞くことがあります。</p>	<p>勤務時間内であれば状況により参加することもできる場合があります。</p>	<p>相談支援</p>

住宅について	借地に立てた自宅を所有しているためか、自宅が古くなり危険な状態になっていても、都営住宅に応募しても、なかなか当たらず困っている現状がある。年金で生活している為、雨漏り等があっても金銭的に修繕が難しい。また、障害者や高齢者となると、賃貸の家賃の支払いも難しく、身動きが取れず、現状の生活を継続せざるを得ない。	現状の部会の時間帯であると勤務時間外のため、参加が難しいですが、日中の時間帯に設定してもらえようでしたら、相談支援部会への参加ができればと思います。	相談支援
医療的ケア児対応のできるヘルパー事業所が少ない。	医ケア児世帯が居宅介護ヘルパーを導入しようとしたところ、対応していない、手一杯で新規が受けられないなどの理由で事業所がなかなか見つからず苦労した。(相談支援ケースの1例) →結果的には支援に入るためにヘルパーが資格を取って対応した。	「子ども部会」参加を希望 (勤務時間内の開催の場合に限り参加可能)	子ども
特別支援学校・特別支援学級に通学されているご本人や保護者の方と学校の先生に、在学中から使える福祉サービス、卒業後使える福祉サービスを知って頂きたい。知ることで安心できることもあると思います。	・特別支援学校や公立小・中・高校の先生の中には福祉サービスの制度をほとんどご存じない方もいらっしゃる。卒業後のイメージを持っていただけることで、学校の個別支援計画にも反映されると思う。		子ども
当事者家族も職員として多く働いている事業所として、障害福祉とは？自立支援とは？当事者力(市民力)を下げない支援とは？当事者と支援者の程よい境界線、距離の取り方について。医療的ケア、違法性の阻却について。看護他事業との連携について。災害時個別支援計画の地域参加について。障害のある方々の地域(社会)参加について。成人以降の生活と障害福祉(将来・可能性)について。発達障害の理解と支援について。親子間の考え方の相違(子の希望と親の希望の違い)に対してどう対応ができるのか。 訪問事業の暑さ対策。体調管理(腰痛)など多岐に渡る課題について話しあっています。	主に障害児時期から継続する支援になり、利用者様ご家族との関わりが大きく影響する分野になります。ご家族の児者の受容や理解の形がさまざまであり、個別性やステージに沿った支援が求められる中 上記のテーマについての話し合いや勉強会が生まれています。 ご家族ごとの障害の受け止め方、障害福祉制度の理解、ヘルパー(また他サービス)利用の考え方等々に違いがあること。児(者)との向き合い方に違いがあることなどから課題が生まれ、内外部、また行政と連携しつつの対応、支援をしています。		相談支援 子ども
呼吸器等、医療デバイスが多い方のショートステイができるところがないです。 他区では、区内に短期ショートができる施設を建てたと聞いています。	20歳を超えた呼吸器医療デバイスが多いご利用者様が、ショートのために遠い地域の施設を利用しないといけない現状があります。 またショート日数も短く、送り迎えで各1日を費やすのでそれではご家族のレスパイトにはならず、かえって疲労感が増しているように思います。		相談支援 子ども
医療的ケア児等ハイリスク時の保育園等 入園問題	区の認可保育園には入園に対してサポート体制をとりはじめているが、私立の認可保育園は適応外で対応できていない。通園児が年度途中で医ケア児になったケースがあり、早急に対応が必要だったが、今の体制では区のサービスを思うように受けられなかった。	子ども部会に参加希望です	子ども
当事者家族の相談先の認知度の低さと家族のストレスが当事者に向けられるデメリット	私の所属する事業所は、当事者家族の相談先の機能をメインとするカウンセリングルームとして2023年10月にオープンしました。 様々な障害者施設と連携をとって行く中で、当事者家族への支援が必要とされながら行き届かない実情に触れることも多くあります。 地域の輪の中の一つとしてしっかり機能できるようになり、同じ志をもつ施設が増えていくと、障害児者を取り巻く環境がよりよくなるのではと考えています。	子ども部会、相談部会への参加を希望します。 部会の参加を楽しみにしております。よろしく願いいたします。	相談支援